（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぷらうらんどkouminnkanひだか　児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日	～	令和7年12月26日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	52	（回答者数）	43
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日	～	令和8年1月23日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	０歳児からの利用ができることで早期療育が行える。	食事、沐浴、午睡、日常生活の中で保護者の困りごとなどに対応している。	市町村や、保護者との連携を強化していく。 現在市町村から委託されている、4ヶ月健診・おやっこっこ教室（療育教室）を継続し、子育て支援の一環として発達支援を位置づけ、児童発達支援センターの敷居を低くしていく。
2	生活全般、個々の子どもの発達に合わせた支援を行っている。	個々に適した道具など、環境設定を意識して取り組んでいる。	より細かな分析を行い、さらに適した支援を行う。 家庭で実施できる環境設定や、内容に搬化し家庭生活で継続して実施できるように工夫をしていく。
3	送迎を行っている。	可能な限り利用しやすい送迎場所へ配車している。	中山間地域においては、送迎場所まで保護者の協力を得ているが、今後は、発達支援を受けることができるよう送迎を市町村の課題として、取り組んでもらえるように協議をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通所でないため、保護者と顔を合わせる回数が少ない。	園との併行通園をしているため園への送迎が多くなり、保護者と会える機会が少ない。	親子通所日を設定し、相談業務のほか親子で楽しめる体験活動に取り組んでいく
2	保護者交流の回数が少ない。	保護者を限定的にした。	対象者の拡大。回数を増やす。 日曜日に保護者交流会を開催し、参加できる機会を増やしていく。
3			